

新版 中国の歴史教科書問題

— 偏狭なナショナリズムの危険性 —

「反日デモ」で噴き出した偏狭なナショナリズムの危険性の指摘など、われわれにも関心の深い問題点を、歴史家の視点で縦横に論じている

【内容紹介】

本書は『氷点週刊』停刊の契機になった論文『近代化と中国の歴史教科書問題』の執筆者である袁偉時・中山大学教授の関連論文集である。冒頭の『「氷点」事件の記録と反省』と自序は、袁教授が本書のため書き下ろした労作であり、一読に値する。

他の論文で、義和団と文化大革命期の紅衛兵の愚行が通底しているとの喝破、日中両国でほぼ同時期に起きた明治維新と洋務運動が異なる結果を生んだ原因の解明、今年の「反日デモ」で噴き出した偏狭なナショナリズムの危険性の指摘など、われわれにも関心の深い問題点を、歴史家の視点で縦横に論じていることも注目される。

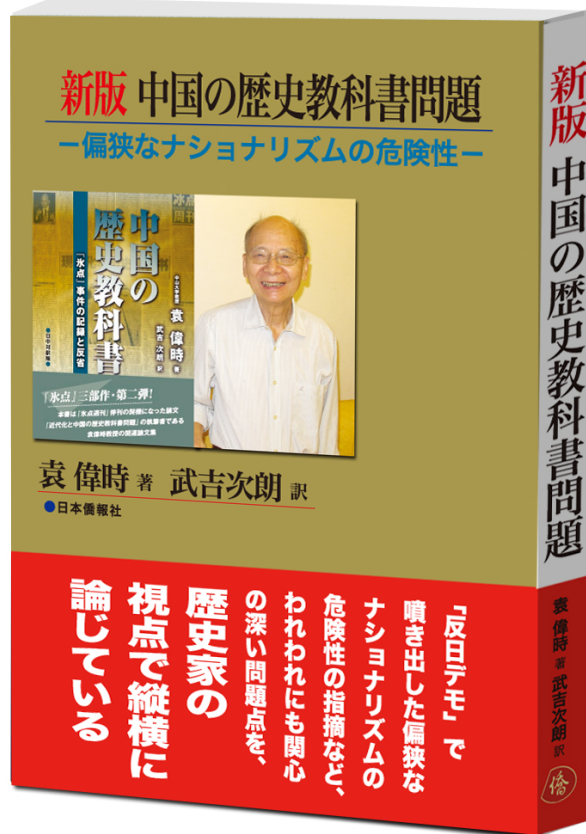
【著者紹介】

袁偉時 (えん いじ) 1932年生まれ、広東省興寧県出身。中山大学哲学学部教授。主な著書：『中国現代哲学史稿』『晚清大变局中の思潮と人物』『路標と靈魂の拷問』『告別中世紀——五四文献選粹と解説』『近代中国論衡』など。

【訳者紹介】

武吉次朗 (たけよし じろう) 1932年生まれ。1958年、中国から帰国。日本国際貿易促進協会事務局勤務。1980年、同協会常務理事。1990年、摂南大学国際言語文化学部教授。2003年退職。主な著書：『現代中国 30 章』(共著、大修館書店、2004) など。主な訳書：『大破産 中国の国有企業改革』(東方書店)、『新中国に貢献した日本人たち』(日本僑報社、2003)、『続 新中国に貢献した日本人たち』(日本僑報社、2005)、『「氷点」は読者とともに』(日本僑報社、2006) など。

中山大学教授 **袁偉時** 著 **武吉次朗** 訳
日本僑報社 ISBN 978-4-86185-141-4



2006年1月、中国の歴史教科書を批判する論文を掲載した週刊紙「氷点週刊」が停刊処分になる事件が起き、中国共産党による言論弾圧強化の動きとして内外に波紋を広げた。本書の著者である中山大学教授の袁偉時氏は、問題とされた論文を執筆した。本書では「第2次アヘン戦争や義和団事件で、侵略した外国勢力の非だけを書き、中国側にも誤りがあった点を教えない」などとする著者の論考が実証的に語られ、説得力を持つ。今回の新版では、その後のインターネットの急速な普及の影響を受けて、庶民に歴史の真相を知る欲求が強まるという変化が生じたことが詳述されている。尖閣問題をめぐる対立について、「紛争があるのみで共通認識がない」などと訴える著者の指摘は示唆に富む。

Asahi Shimbun Weekly AERA 2012.12.10



AERA
『新版 中国の歴史教科書問題 — 偏狭なナショナリズムの危険性 —』
袁偉時著 武吉次朗訳
(3800円＋税／日本僑報社)

ご注文は、日本僑報社 e-shop (中国研究書店) をご利用いただくか、またはこのチラシを書店にご提示ください。(トーハン 日販 その他 取次コード：5752)

	新版 中国の歴史教科書問題 ISBN 978-4-86185-141-4 発行日：2012年11月11日 A5判 200頁 並製 (ondemand版) 定価：本体 3800円＋税 日本僑報社 e-shop http://duan.jp	注文部数 部 (送料無料)	ご注文 / 番線印 ご注文の方は、 注文部数、住所 〒、氏名、電話番号をご記入ください
送信 FAX 03-5956-2809			